

21世紀の日本のかたち（114）

道州制-地域からの国づくり（その7）

-中部州・北陸中部州-



戸沼幸市

<（一財）日本開発構想研究所 代表理事>

1. 中部圏（静岡県、愛知県、三重県、岐阜県、長野県）の地政学-地理・地形と歴史

新たな中部圏広域地方計画-暮らしやすさと歴史文化に彩られた“世界のものづくり対流拠点-中部”を片手に、3月と4月に、この地域の構成県を小旅行してみました。

新たな中部圏の構図として改めて感じたことは日本の二大都市圏、東京圏と関西圏をつなぐ大きな回廊であること、そして太平洋に面する名古屋圏から日本海側の北陸圏とを南北に結ぶ軸状の地域構造を持つ広域生活圏であることでした。

図1 中部・北陸圏の地図



平凡社日本地図帳に県境を赤線で戸沼が加筆

静岡県—富国有徳の理想郷“ふじのくに”づくり

地理・地形と人間居住

静岡県は太平洋に面し、変化に富む海岸線をもっています。伊豆半島はしっかりした胞子状の形で太平洋に突き出し、左右に相模湾と駿河湾をつくりだし、これに続く遠州灘の日本一長い砂丘が防潮堤の役割（津波等に対する減災効果）をもなし、これに続いて大きな平野が形成されています。

駿河湾から遠州灘の背後には山岳地帯から発する富士川、大井川、天竜川によってつくり出される肥沃な平野が広がっており、大きな人間居住の場を提供しております。また、富士川、大井川、天竜川は、その分水界を境に、東部、中部、西部に分けて見ることもでき、東部は伊豆半島及び岳南（富士山南斜面）の各地からなります。中部は富士川から大井川、天竜川の分水界（牧ノ原台地）まで、ここから浜名湖を含み愛知県境までが西部となります。

この3区分を前提に手元の地図をミクロ的に眺めると、東部地区にはまず日本一の山、富士山（3,776m）が山梨県との県境に裾が広がった美しい姿があります。田子の浦、千本松原から眺める風景は有数の景色です。

伊豆半島の最南端には、明治日本の開国に大きな役割を果たした下田港があり、熱海市から沼津市まで伊豆半島一周の旅は、海（太平洋）に面した地形に営まれている人々の暮らしを興味深く教えてくれます。富士山、箱根から伊豆半島一帯は富士箱根伊豆国立公園の一部となっております。

中部地域は江戸時代の東海道五十三次のルートと重なって、JR東海道線沿いに、清水

（現静岡市清水区）、静岡、焼津、藤枝、島田、掛川、磐田、浜松の都市が連なり、静岡県の主要な人間居住空間を形成しています。

歴史

現在の静岡県の領域は古代・中世近世と幾度の時代の歴史の波を受けながらも、奈良時代の律令制における3つの行政区分、遠江（とおとうみ）国、駿河国、伊豆国に分かれます。

徳川家康が関東・江戸に幕府を開いてからは、この領域は広大な天領、駿府（駿河）、中泉（遠江）、韮山（にらやま）（伊豆）となり、これを代官所が支配したほか、旗本、沼津藩、浜松藩他、中小の譜代諸藩、寺社領が入り組んで独自の小領域が出来ていた様子です。

明治政府による当初の廃藩置県、韮山県（伊豆）、静岡県（駿河、遠江）、堀江県（浜名湖北部）の3県から1876（明治9）年に現在の静岡県の領域となりました。

近現代、農業、林業、内陸型工業を中心とした東海工業に独自の展開を見せてきました。

静岡県は立地的に中京と繋がりながら歴史的に関東・東京圏と強い結びつきがあります。

静岡市

県都静岡市（政令指定都市）は、海から北に向かって一杯に延び、その面積1,412km²は全国第5位の広さです。人口693,604人（推計人口、2019年3月1日）。

3月28日、静岡県出身の松本泰生氏に静岡市の成り立ちについて説明を受け、案内してもらいました。はじめに、駿府城の跡地を利用した公園（駿府城公園）に隣接している県庁の最上階の展望スペースから市街地を俯瞰し、地理、地形、歴史の要点を知ることがで

きました。

- ・ 中心市街地の位置は静岡平野の安倍川東岸の扇状地
- ・ 古代には駿河国府、鎌倉時代以降東海道の宿駅
- ・ 1607年、徳川家康は大御所と自称し「駿府城」を本拠地とし、江戸と並ぶ政治の中心に
- ・ 1876（明治9）年、明治期、廃藩置県により曲折を経て静岡県の県都となる
- ・ 1889（明治22）年、東海道本線全通、周辺市町村を編入して市域を拡大し、現在の姿となっているなど

浜松市

政令指定都市 面積 1,558.06 km²、人口 793,033 人（推計人口、2019年3月1日）、共に静岡市を上回る商工業都市。

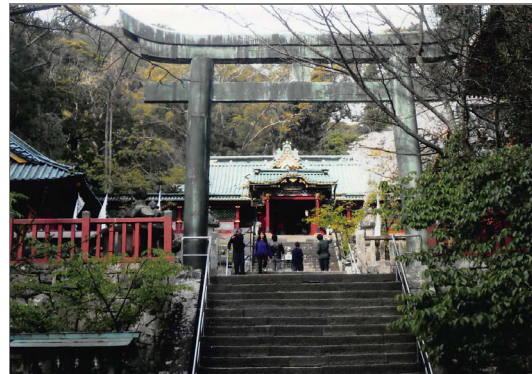
- ・ 東は天竜川、西は浜名湖を境とする
- ・ 1570年、徳川家康、浜松城を築城し本拠地とする
- ・ 近世宿駅（浜松宿）、品川より29番目

松本氏の解説によると、静岡市は関東寄りなのに対して、浜松は西寄りで文化もやや異なるということでした。

見学コースは静岡市街地を一巡の後、日本平の徳川家康を祀る久能山東照宮、羽衣伝説の三保の松原と巡って、夜の静岡談義を楽しんだことでした。

ただ残念なことに天候が薄曇りで、お目当ての富士山をくっきりとは見ることができませんでした。

写真1 久能山東照宮



撮影戸沼（2019.3.28）

写真2 三保松原と富士山



資料：（公財）するが企画観光局

愛知県 - あいちビジョン 2020 ～日本一の元気を暮らしの豊かさに～

地理・地形と人間居住

愛知県の地形は、濃尾、岡崎、豊橋の平野部と、三河高原、尾張丘陵の山地・丘陵部に大別されています。このうち濃尾平野は、面積1,800 km²と関東平野、石狩平野、十勝平野、越後平野に次ぐ大きさであり、ここに名古屋大都市圏が形成されております。

木曾川、矢作川、豊川など、大小の河川の潤す平野部には、“農” - 米、果樹、園芸、

桑園、畜産（戦後）などが、都市・大都市近郊において、キメ細かな展開が見られます。渥美半島の外海では、イワシ、エビ、カレイなどのとれる漁業が行われ、また海苔の養殖が有名です。ものづくり産業として、繊維、陶器は有名ですが、世界ブランドとなっているトヨタ自動車の本社工場の存在は、文字通り愛知の“ものづくり”の牽引車です。

愛知県は知多湾に注ぐ境川によって、夏は高温多湿、冬は伊吹おろしの尾張と、比較的温暖な三河とでは住む人の気質も異なっているといわれております。

歴史

尾張三河の人間居住は、律令制以前、濃尾平野（木曾川・庄内川地方）の尾張国、岡崎平野（西三河の矢作川地方）の三河国、豊橋平野（東三河の豊川地方）の徳国に三分されていましたが、律令制によって尾張国、三河国（三河・穂が合体）の2国となり、江戸時代まで続きました。

中世においては、木曾川を挟んで源平合戦（源平墨俣川の戦）の記録を残します。戦国時代、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の天下統一をめぐる覇権争いは、東西をつなぐ中京という位置、舞台においてこそのものでしょう。

近世、幕藩体制づくりの要の一つとして、徳川家康はここに天下普請によって名古屋城を築城（1610年）、尾張藩62万石の大きな城下町をつくり出しました。これに対して三河は十数の小藩に分割されて、いわば不連続の連続的居住でした。

近現代、明治政府の成立によって廃藩置県が行われ、尾張、三河地域は曲折を経て愛知

県となりましたが、産業面では、明治、大正、昭和、平成と日本における産業革命の一つの中心として自動車生産に通じる様々な形の工業を起こしております。この間、第二次世界大戦によって愛知県の町や都市は大きな被害を受け、名古屋市は当時の市域の25%、中心市街地の60%を焼失しました。これに対して名古屋の都市計画で“100m道路”を設定するなど、意欲的な戦災復興計画を展開しました。

そして日本の三大都市圏、東京と関西の中間位置において、中核的存在であり、江戸時代、東海道五十三次のいくつもの宿駅がありましたが、これに重ねて近代、東海道線（1889(明治 22)年東京神戸間）、東海道新幹線（1964(昭和 39)年東京新大阪間）、名神高速道路（1965(昭和 40)年小牧IC 西宮IC間）を開通させています。そして現在、リニア中央新幹線の工事が始まっています。

災害に関しては、伊勢湾台風（1959年9月26日）により名古屋市を中心に、木曾三川（木曾川、長良川、揖斐川）の輪中など、広範囲な3ヶ月に及ぶ浸水により、死者行方不明者5,098人、伊勢湾台風は日本の防災対策の原点ともいえる歴史的災害です。近未来に起こると予想されている南海トラフ地震にどう備えるかは中部広域地方の大きなテーマであり、愛知県においても様々な取り組みがなされております。

名古屋市の見学

名古屋市では、駅と一体となっているオフィスと共用の超高層のホテルに宿泊しました。印象として、人の移動はほぼ車であり、路上に人の歩く姿が見えないことでした。駅周辺はリニア中央新幹線の開通に合わせ、超高層

建築のラッシュの様相です。

私の名古屋見学は、案内してくれた内藤和彦氏（中部大学名誉教授）、子息の建築家太一君の車でのものでしたが、名古屋の人々は車無しでは生活できないということでした。

名古屋の戦災復興計画の“100m 道路”は緑地としても活用され、名古屋城とその公園地区、熱田神宮などは車社会の進む現代都市名古屋のオアシスに思えます。

日本 100 名城（日本城郭協会が 2006 年に定める）の一つ、城郭建築において国宝第 1 号の名古屋城を見学しました。人手で積み上げられた高さ 10 間余（20m）の石垣の上に、五層の大天守閣は、最上部に金の鯨（シヤチ）を載せて、春の日、天と向き合っていました。

写真 3 名古屋城



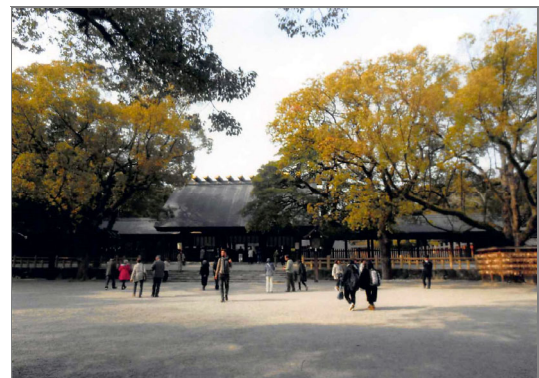
撮影戸沼（2019. 3. 29）

現在の城は鉄筋コンクリート造ですが、これを元の木造建築にする計画が進んでおりますが、これについて、1612 年の築城時の現存する石垣に手をつけるべきかが問題となっている様子です。いずれにしろ、城はいわば近世における手づくりの超高層建築です。現代の鉄とコンクリートとガラスの機械づくりの超高層と対照的に、人手、手触り、そしていい垢がついております。総じて、現代建築は

いい垢が付かなくなりましたが、これは日本文化にとって重大なことかもしれません。

熱田神宮も名古屋の森、緑地空間として大きな役割を果たしております。熱田大神を主祭神に祀る熱田神宮は明治期、尾張造りの社殿から伊勢神宮と同じ建築様式、神明造りに変更されたものです。しばし皆で手を合わせました。

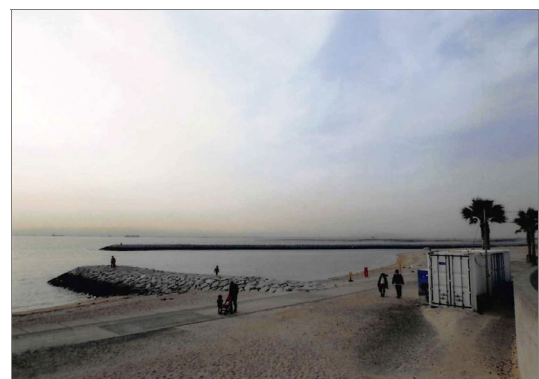
写真 4 熱田神宮



撮影戸沼（2019. 3. 29）

この日、車で名古屋市街から知多半島を南下し、常滑まで足を延ばしました。対岸には三重県の四日市のコンビナートが遠望できました。

写真 5 知多半島常滑より四日市方面を望む



撮影戸沼（2019. 3. 29）

常滑には中部国際空港（セントレア）がありますが、この周辺に広大な駐車場を持つ大型スーパーマーケットがあり、名古屋などの

市民はここに車で買い物に来るとのことで、ここでも車社会であることを実感させました。さて、人々が街の路上から消えてしまう車都市の未来はどのようになるのか。

三重県一みえ県民カビジョン「守る」「創る」「拓く」

地理・地形と人間居住

三重県は、長い海岸線が太平洋（熊野灘）から巻きつくように伊勢湾を囲んで、愛知県、名古屋圏につながっております。北東の県境は養老山地であり、岐阜県と隣接しており、そして三重県西側の領域は鈴鹿山脈（標高1,000～1,200m）、台高山脈などを境に、滋賀県、奈良県と隣接しています。南端部は和歌山県との県境です。

三重県の多くの人間居住空間は伊勢湾側の平野部にあり、四日市、津市、伊勢市などが築かれています。これら平野部には、山地から流れる河川、木曾川、鈴鹿川、安濃川、宮川などがこの地域の人間居住の基礎条件を提供しています。

三重県の地政的条件、歴史的背景から内陸の居住区は4つの地域に分けられております。

北勢・中勢地域：伊勢平野の中央部、三重県の面積の約半分を占め、県都津、名古屋のベッドタウン桑名、臨海工業地帯の四日市、鈴鹿、松阪牛の松阪などの中小都市が連なり、伊勢湾に面する三重県の主要な人口集積地です。

南勢・志摩地域：志摩半島と伊勢平野最南の地域、伊勢神宮のある伊勢市、養殖真珠の鳥羽市などが含まれます。

東紀州地域：県の最南端、海側は好漁場熊野灘に面し、山側は紀伊半島、奈良県境と接しています。面積、県の2割弱、尾鷲市、熊野市が含

まれ、人口減少が問題となっている様子です。

伊賀地域：上野盆地に築かれた居住地域。伊賀市、名張市などが含まれます。大阪湾に注ぐ淀川水系の上流にあたり、大阪のベッドタウンともなり、生活圏として近畿圏に入っけていてもおかしくない境界領域にあります。

歴史

三重県の歴史について伊勢国、志摩国、伊賀国、紀伊国（一部）として記録をたどれば、古代、雄略天皇（478年没）が伊勢国を建立したと伝えられています。そして大和朝廷の伊勢神宮建設の経過、皇室の崇廟、天照大御神の御霊代（みたましろ）、八咫鏡（やたのかがみ）を祀る神明造の木造建築を20年ごとに造り替える「式年遷宮」は古代人の非凡な着想に思えます。

古代、中世を経て、近世、江戸時代末期の三重は、藤堂氏32万石の津藩のほか、亀山藩他8藩があったことが記録されております。近世、津は伊勢街道沿いの、織田信長の弟、信包の造った城下町であり、現在、城はありませんが、城跡の公園として市民に親しまれている様子です。

近現代、廃藩置県で現在の三重県となったのが1876（明治9）年。戦前、戦後を通じて、農・漁業の第1次産業に重ねて、第2次産業を興し発展を続けてきました。工業に関しては、戦前を引き継いで戦後、四日市は臨海工業地帯を造成し、県北の工業化に大きな寄与をしております。工業などの近代産業の展開は、交通の発達と一体のものであり、大阪、名古屋などにつながる自動車道や鉄道が四通八達しております。この点で三重県は近畿と東海を結ぶ架け橋になっているという見方も

できます。

お伊勢参り

三重県では県都津市に一泊(3月29日)し、伊勢神宮に参詣しました。五十鈴川に架かる宇治橋を渡って石畳を上り内宮へ、大勢の参詣者で賑わっておりました。

伊勢神宮は伊勢五十鈴川のほとりに、天照大御神を祀る内宮と、少し離れて豊受大御神を祀る豊受大神宮(外宮)があります。

伊勢神宮(内宮)の社殿(正殿)は、桁行3間、梁間2間、堀立柱、切妻造、平入り茅葺きの神明造りです。棟上に「10本」の鯉木が載っています。

伊勢神宮(内宮)正殿



資料：伊勢神宮ホームページ

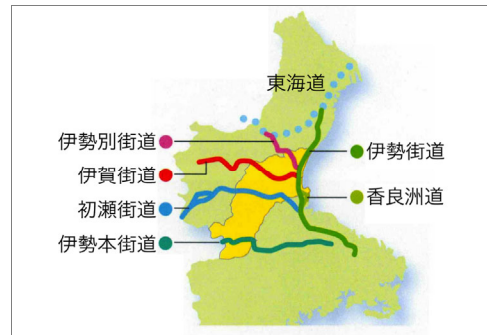
伊勢神宮のユニークな点は、東西に並ぶ二つの敷地に交替に一方の敷地に建て替える20年毎の式年遷宮です。社殿の小振りな建築規模もこれに見合っています。日本の天皇制、日本の国のかたちを奈良時代の古式が基本的に継承された縦に貫く、時間軸線の簡明な表現です。

4月18日には、天皇も退位に向けた儀式の一つ、退位行事「神宮親謁の儀」に臨み、伊勢神宮を参拝されました。

津では、港町津が伊勢湾越しに知多半島を遠望し、いかにも中世、近世と東西・南北の行き交う街道筋の集約点であったことが理解

されます。

図2 伊勢周辺の歴史街道



資料：津市観光協会「旅のガイド津」より

写真7 伊勢別街道の町並み



撮影戸沼(2019.3.30)

津市では真宗高田派本山専修寺(国宝)に参詣しました。如来堂、御影堂と二棟並んで壮観です。津には東海道につながる昔の街道を思わせる家並みも残っております。

写真8 高田派本山専修寺

如来堂(左)と御影堂(右)



撮影戸沼(2019.3.30)

岐阜県 - 清流の国ぎふ

地理・地形と人間居住

自然環境は、飛山濃水：山の国飛騨（飛騨から美濃にかけての広い山地（8割）と、水の国美濃（濃尾平野の一部（2割））からなります。海と離れた内陸県として他県とは、南に濃尾平野にあって名古屋圏に巻き付くように接し、東側は長野県、飛騨山脈（北アルプス）、槍ヶ岳、穂高など3,000m級の峰を境としております。北側は富山県、西側に石川県、福井県の北陸3県に接しております。

地域区分として、おおまかに4つの生活圏、中濃地域（県の美濃平野東部と周辺の高地、岐阜市を中心にその周辺の市や町）、西濃地域（県の南西部、美濃平野西部とその周辺の山地、大垣市を中心にその周辺の町）、東濃地域（県東南部、木曾川以南の丘陵地からなり、多治見市ほか）、飛騨地域（県北、高山を中心に周辺の旧飛騨国一円の人間居住の地域、合掌造りで有名な白川郷も地域に含まれる）が挙げられております。

このうち、岐阜市を含む中濃地域は車社会にあって、名古屋大都市圏と密接しつつあるという見方もできます。さらに西濃、東濃地域もこれにつながります。これに対して飛騨地域は太平洋と日本海をつなぐ南北、タテ軸としてこれから重要になるのではないかと。私の今度の旅では、岐阜市からJR高山線で白川、下呂、高山を通過して富山に抜けましたが、初春の緑に桜の咲く美しい山あいの居住に、改めて日本の文化（下呂、白川、高山など）を感じたことでした。

歴史

現在の岐阜県は、明治以前の美濃国と飛騨

国にあたり、明治の廃藩置県により美濃地域は岐阜県に、高山地域は筑摩県に、そして1876（明治9）年、筑摩県の廃止とともに現在の岐阜県が成立しています。

幕末には大垣藩、加納藩、郡上藩、高須藩、高富藩、岩村藩、苗木藩のほか、尾張藩の大名領など、人間居住が細分化された領域で仕切られておりました。

近現代

主たる産業は、水利豊かな平野での農業（水田、畑、樹園地など）、伝統的な地場産業（繊維、窯業、陶磁器、金属、家具木工）からの発展型の軽工業に、電気機械器具などの部品工業などが挙げられますが、近年繊維などはダメージが大きい様子です。

今後、豊かな歴史遺産、自然をベースに、第三次産業と特に観光などの伸びが期待されています。

岐阜市 県都、人口 402,537 人（推計人口、2018年10月1日）

長良川の流れる濃尾平野の北部に位置する県都岐阜市は、戦国時代、斎藤道三の築いた岐阜城とその城下町から出発し、続いて織田信長が入城、ここに職人、商人を集めて繁栄させたとあります。

岐阜市観光の目当てはやはり金華山（329m）頂の岐阜城です。市中を流れる長良川を眼下にロープウェイを中継して、石の段々を上って岐阜城の天守閣まで上ってみました。この場所から市中の四方をよく見渡せます。岐阜城はコンクリート造で市が再建したのですが、城の石垣が当時のままにすべく工夫がなされておりました。

写真9 岐阜城



撮影戸沼 (2019. 4. 12)

城下町も一角、かつての雰囲気が残っており、岐阜市の観光スポットになっております。長良川ではこの5月に始まる鶺鴒の準備を始めておりました。

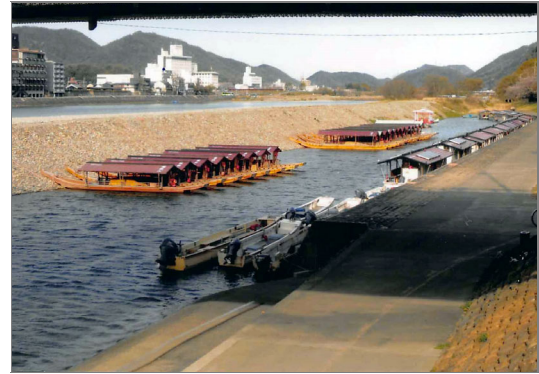
4月12日、岐阜市内をあちこちタクシーで見学したのですが、かつて繊維の間屋や商店、繁華街として栄えた駅前地区が衰退の気配だと、老ドライバーが嘆いていたのが印象に残ります。これには車社会となり郊外に大きなスーパーマーケットができたことも要因であり、現在、地方都市での大きな問題です。

写真10 城下町の雰囲気を残す町並み



撮影戸沼 (2019. 4. 12)

写真11 鶺鴒の準備をする長良川の風景



撮影戸沼 (2019. 4. 12)

長野県 - しあわせ信州創造プラン 2.0 - 学びと自治の力で拓く新時代 -

少子高齢化、人口減少の進行など、県を取り巻く社会経済の大きな変化を踏まえて、直面する課題に明確に対応し、新たな時代にふさわしい長野県づくり

地理・地形と人間居住

中部地方の中央東部に位置し、群馬、埼玉、山梨、静岡、愛知、岐阜、富山、新潟に囲まれている内陸県。県の南北 212km、東西 100～110km。県域全体は、標高の高い高冷地、亜高山帯。

富山、岐阜との県境には飛騨山脈（北アルプス）-白馬岳（2,932m）、五竜岳（2,814m）、鷲羽岳（2,924m）、槍ヶ岳（3,180m）、穂高岳（3,190m）。静岡、山梨の県境には、甲斐駒ヶ岳（2,967m）、仙丈ヶ岳（3,033m）、塩見岳（3,047m）、赤石岳（3,121m）、聖岳（3,013m）、光岳（2,592m）が連なります。県東部には、2,000～2,500m級の秩父山地、関東山地、浅間山、白根山などの火山。

これらの山脈の谷筋に日本でも有数の河川一天竜川、木曾川、富士川、犀川、千曲川（新潟県に入って信濃川と名が変わる）が流れて

おり、この地形の創り出す大小の扇状地に人間居住の場が造られてきました。

地理・地形に見合って、北信（長野市他）、東信（上田市他）、中信（松本市他）、木曾（木曾谷と周辺）、諏訪（諏訪盆地と八ヶ岳小鹿）、伊那北部（伊那市他）、伊那南部（飯田市他）に生活圏が区分されています

歴史

長野県域は、古来、地理地形に見合って、小規模な可住地（盆地）が不連続にあって、ここに人間居住の歴史をつくり出してきましたが、江戸末期には松本藩他、飯田、高遠、高島（諏訪）、田野口（龍岡）、松代、須坂、飯山、岩村田、小諸、上田などの小藩が分立していたと記録されています。

明治の廃藩置県により、一時、各藩がそれぞれ県となりましたが、1876（明治9）年、まとめられて長野県は現在の地域となりました。

現在、主たる産業は、農業、地場的工業、そして近年は外国人の観光客も多く、観光産業の比率が高くなっています。

県都、長野市は、交通の要路、新潟、富山の日本海への南北軸の要にあって、歴史的に善光寺の門前町、宿場町として栄えてきた都市です。1998年には長野を会場に20世紀最後の冬季オリンピックが開催されました。

長野市 県都、人口 372,304 人（推計人口、2018年10月1日）

県北東部、千曲川に沿う長野盆地と周辺の山地からなる。

歴史的に信州善光寺（1704（宝永4）年に再建された）の門前町としての性格を持ち、

1871（明治4）年、県庁所在地に（筑摩県は松本市）。現在、長野県の経済、政治、文化の中心的役割を持ち、北陸新幹線で北陸、富山、関東、東京と、1時間、2時間の距離に。

私も久しぶりの長野市では善光寺（無宗派の単立寺院）に参詣しました。本尊（一光三尊阿弥陀如来像）が安置されている本堂は、江戸時代中期を代表する仏教建築として国宝に指定されていますが、総檜皮葺の二重屋根を持つ堂々たる日本の木造建築です。門前町としての雰囲気は、参道両側の店々に、そして善光寺周辺が景観保全地区になっており、門前町として長野らしさが保全されています。

写真12 善光寺本堂



撮影戸沼（2019.4.13）

写真13 善光寺山門と参道



撮影戸沼（2019.4.13）

善光寺見学の後、長野冬季五輪のメイン会場となった長野市オリンピック記念アリーナ（エムウェーブ）を訪ねました。

**写真14 長野冬季オリンピック
メイン会場（エムウェーブ）と山並み**



撮影戸沼 (2019. 4. 13)

Mの形をした屋根を重ねた波形の建築が、周辺の山並みに重なって輝いており、この日も大勢の市民の催し会場になって賑わってありました。そして清々とした千曲川が山国の春を乗せて流れている風景に、しばし立止まりました。

写真15 千曲川と山並み

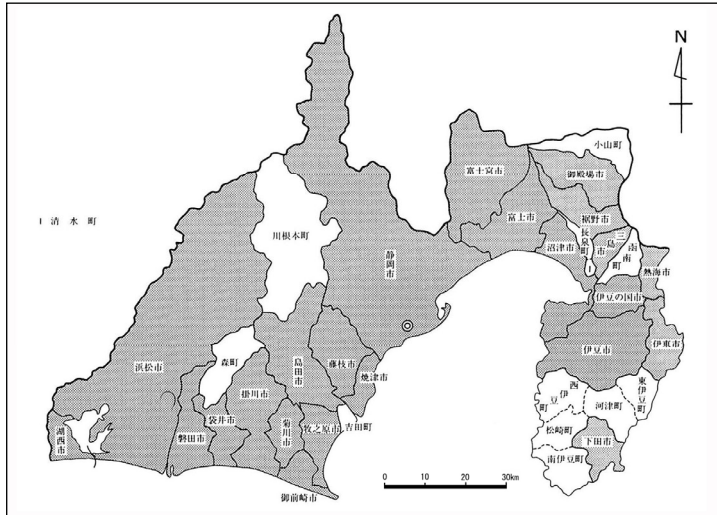


撮影戸沼 (2019. 4. 13)

【参考資料】

各県の市町村分布と主な生産物

1-静岡県

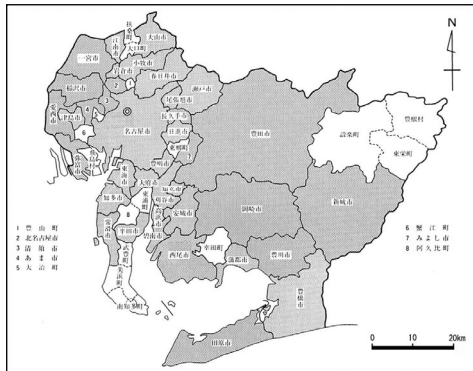


主な生産物

ピアノ	(2016年)	*100%	(1位)
白熱電灯器具	(2016年)	*86%	(1位)
鉛蓄電池	(2016年)	*46%	(1位)
茶(荒茶)	(2017年)	38%	(1位)
かつお類	(2016年)	30%	(1位)
茶系飲料	(2016年)	*29%	(1位)
衛生用紙	(2016年)	*29%	(…)
軽・小型乗用車 ¹⁾	(2016年)	*17%	(…)

*は金額ベース。1) 2000cc以下。

2-愛知県

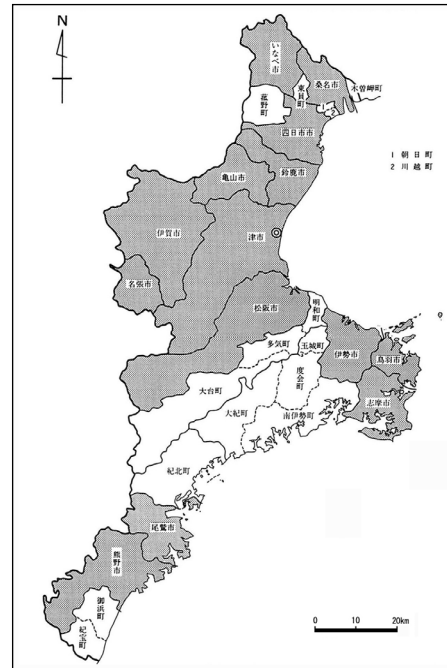


主な生産物

電動工具	(2016年)	*81%	(1位)
衛生陶器	(2016年)	*55%	(1位)
あさり類	(2016年)	44%	(1位)
毛織物	(2016年)	*43%	(1位)
パチンコ スロット	(2016年)	*42%	(1位)
普通乗用車 ¹⁾	(2016年)	*37%	(…)
アルミ圧延製品	(2016年)	*31%	(1位)
乗用車用タイヤ	(2016年)	*25%	(…)

*は金額ベース。1) 2000ccを超えるもの。

3-三重県

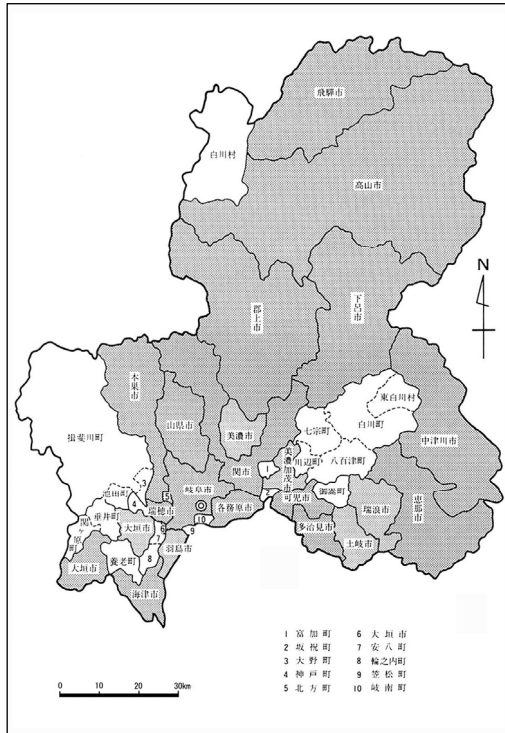


主な生産物

陶磁器製台所・調理用品	(2016年)	*72%	(1位)
さつき(出荷量)	(2016年)	64%	(1位)
真珠装身具 ¹⁾	(2016年)	*57%	(1位)
液晶パネル	(2016年)	*51%	(1位)
錠. かぎ	(2016年)	*48%	(1位)
いせえび	(2016年)	22%	(1位)
合成ゴム	(2016年)	*16%	(…)

*は金額ベース。1) 購入真珠によるもの。

4-岐阜県

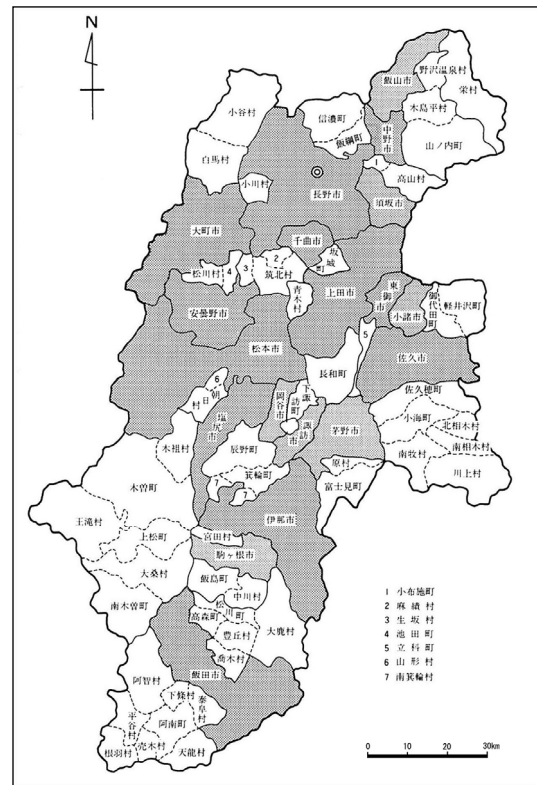


主な生産物

陶磁器製洋食器	(2016年)	*67%	(1位)
陶磁器製タイル	(2016年)	*66%	(1位)
ほう丁	(2016年)	*58%	(1位)
ちょうちん	(2016年)	*43%	(1位)
陶磁器製和食器	(2016年)	*43%	(1位)
油圧シリンダー	(2016年)	*32%	(1位)
換気扇	(2016年)	*28%	(…)
マシニングセンタ1)	(2016年)	*15%	(…)

*は金額ベース。1) 複合型NC工作機械。

5-長野県



主な生産物

えのきたけ	(2017年)	64%	(1位)
みそ	(2016年)	*51%	(1位)
ウォッチ1)	(2016年)	*45%	(…)
レタス	(2017年)	38%	(1位)
わさび	(2017年)	37%	(1位)
印刷装置	(2016年)	*25%	(…)
りんご	(2017年)	20%	(2位)
ジュース	(2016年)	*18%	(1位)

*は金額ベース。1) ムーブメントを含む。

資料：「データで見る県勢 2019年版」

2018.12.1 (公財) 矢野恒太郎記念会

2. 2 1世紀の中部圏ビジョン – 新たな中部圏広域地方計画

中部圏は人口 1,509 万人（2018 年）、面積 42,907 km²、圏内総生産 692,951 億円（2015 年）。

地理的特徴は、海側（太平洋）に面している静岡県、愛知県、三重県と、日本有数の山側に広がって長野県、岐阜県があり、日本列島の中央部において独特な人間居住のかたちを築いています。

表 1 中部圏広域地方 構成 5 県

県名	人口 (万人)	面積 (km ²)	GDP (億円)
静岡県	368	7,777	172,924 (2017)
愛知県	752	5,173	295,593 (2015)
三重県	180	5,774	82,865 (2015)
長野県	208	13,562	85,580 (2015)
岐阜県	201	10,621	55,985 (2015)
計	1,509	42,907	692,951 (2015)

資料：各県統計書

表 2 参考：北陸広域圏地方 構成 3 県

県名	人口 (万人)	面積 (km ²)	GDP (億円)
富山県	107	4,252	46,465 (2015)
石川県	116	4,197	45,733 (2015)
福井県	79	4,189	32,333 (2015)
計	302	12,638	144,531 (2015)

資料：各県統計書

日本列島の中央部、東京圏と関西圏の中央に位置取りする中部圏の広域地方計画は、中部圏の 2050 年頃までを展望しつつ、2027 年リニア中央新幹線、東京・名古屋間開業を見据えた、今後、概ね 10 年間の国土形成計画に係る基本計画であり、中部圏広域地方計画協議会が取りまとめ、国土交通大臣決定（2016. 3. 29）によるものです。

以下はこの中部圏広域地方計画のレビューです。

2 1 世紀の中部圏ビジョン—新たな中部圏広域地方計画：暮らしやすさと歴史文化に彩られた“世界ものづくり対流拠点-中部”

2-1. 中部圏の現状と課題 時代の潮流（我が国と中部圏を取り巻く情勢）

§ 1 時代の潮流（我が国を取り巻く情勢）

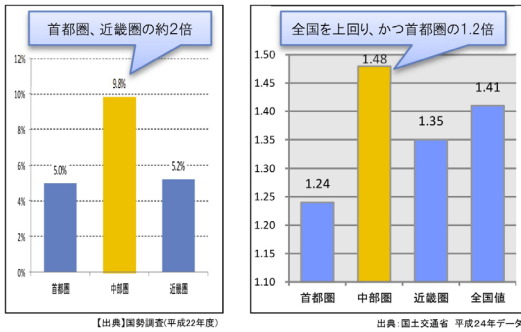
- ・グローバル化の進展
- ・世界を先導するスーパー・メガリージョンの形成
- ・人口問題（少子高齢化）
- ・巨大災害の切迫とインフラ老朽化
- ・環境・エネルギー問題
- ・技術革新の進展
- ・国民の価値観の変化など
- ・国土空間の変化

§ 2 中部圏を取り巻く情勢

- ・中部圏の地域特性・強み – 地勢・自然的特性
- ・中部圏の骨格を成す東西軸・南北軸・環状軸
- ・環太平洋・環日本海に拓く中部・北陸圏
- ・豊かな自然
- ・歴史・文化的特性 – 新進気鋭、ものづくりに息づく、地域に根付く歴史文化
- ・多極分散型で重層的な地域構造
- ・ものづくりに秀でた産業特性
- ・ゆとりある生活環境

図3 ゆとりある生活環境

三世帯同居比率（左）と合計特殊出生率（右）



中部圏の状況・課題

- 人口動向 人口減少度合いが高い中山間地域。
現状を維持・増加が見込まれる名古屋大都市圏
- 地域社会と生活
- 産業とインフラ
- 災害
- 環境、エネルギー、土地

図4 人口動向 地域社会と生活

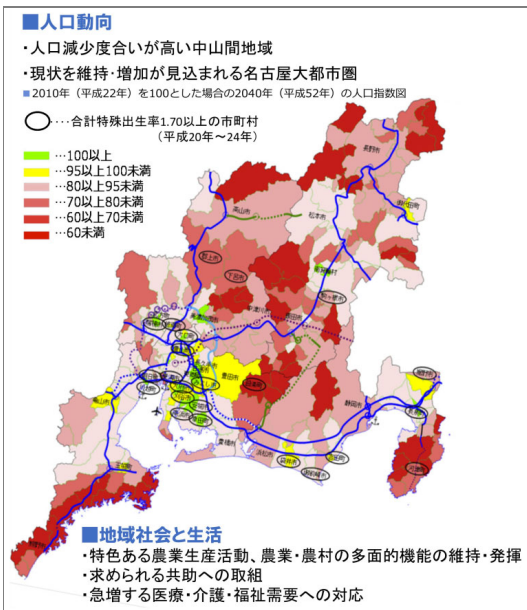


図5 産業とインフラ

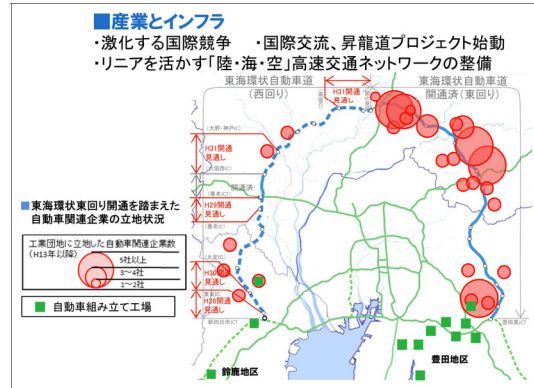
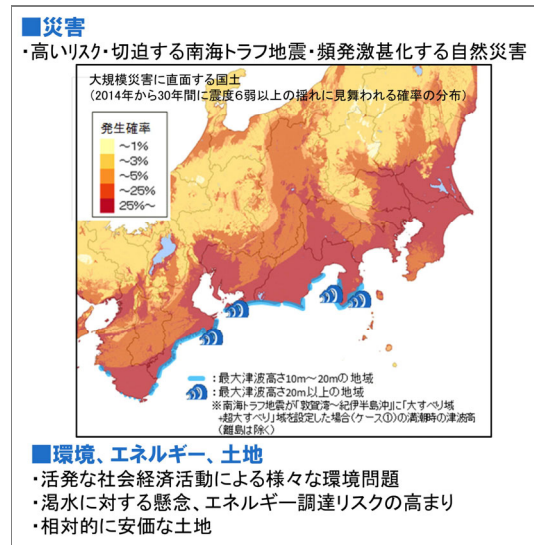


図6 災害と環境、エネルギー、土地



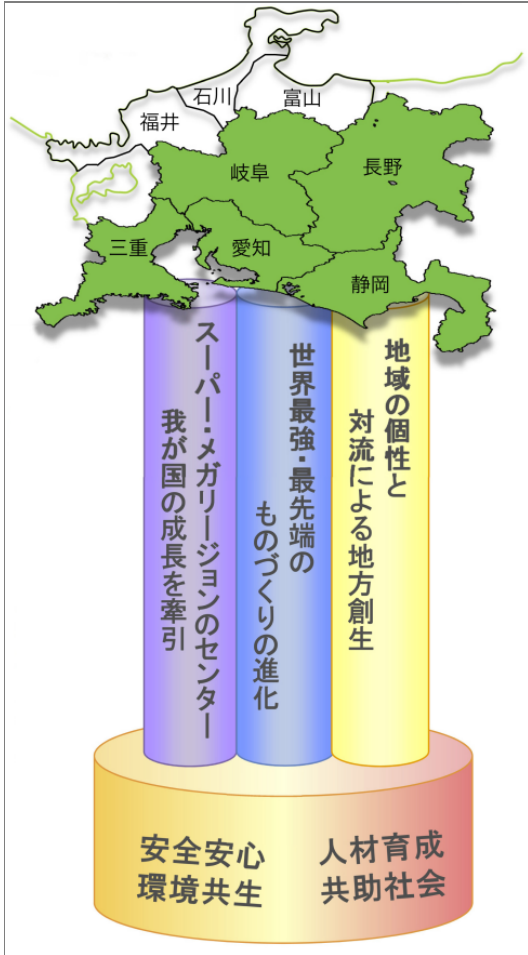
2-2. 中部圏の目指すべき将来像と実現に向けた基本方針

暮らしやすさと歴史文化に彩られた“世界ものづくり対流拠点 - 中部”

- 世界最強・最先端のものづくり産業・技術のグローバル化で - 環太平洋・日本海に築かれた我が国の一大産業拠点
- リニア効果を最大化し、都市と地方の対流促進、ひとり一人が輝く中部 - 高速交通ネットワークを活かし中部北陸に広がる国内外との交流連携対流促進
- 南海トラフ地震などの災害に強くしなやかに環境と共生した国土 - 太平洋・日本

2-3. 基本方針に係る具体的方策

図7 将来像実現に向けた基本方針



【方針1】

世界最強・最先端のものづくりの進化

【具体的方策】

我が国の成長を担う産業の強化 ～企業の国内回帰・海外の対日投資を呼び込む～

- ・中部圏の産業競争力の強化、世界最強・最先端のものづくり中枢圏の形成
- ・ものづくりを支える中堅・中小企業の振興

- ・環太平洋・環日本海に拓かれた一大産業拠点・中部北陸圏の連携強化

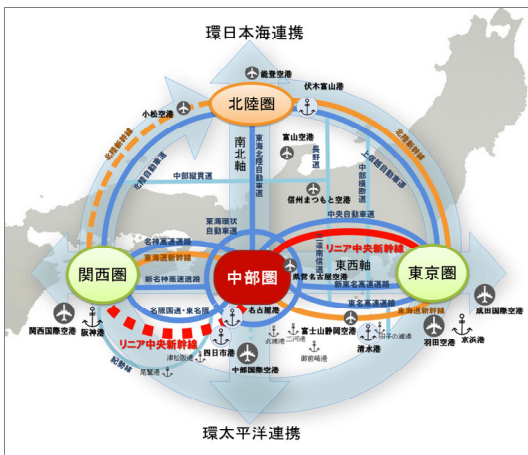
高度なものづくり技術の活用による新たな産業の創生

- ・ものづくり産業に関連する新たな産業の創生
- ・大学や官・民の研究施設等のネットワーク強化による更なる研究力の強化

水素社会実現など新しい世界モデルの提示

- ・先陣を切った FCV 開発・量産化、水素社会実現のアドバンテージ
- ・低炭素社会に向けた未来の水素社会の世界モデルを提示

図8 中部圏と環日本海連携・環太平洋連携



国際競争力を支える産業基盤の強化

- ・基幹産業を支える国際物流拠点の強化
- ・ものづくり産業を支える陸海空の拠点を結ぶ道路ネットワーク強化
- ・将来を見据えた総合的な土地の利活用
- ・安定したエネルギー供給の多様化、安定した水の供給

【方針2】

スーパー・メガリージョンのセンター、我が国の成長を牽引

【具体的方策】

リニアを活かした新たな中部圏の形成～日

本のハートランド・中部～

- ・中部圏の役割と中部固有の新たな価値の創造
- ・国際競争力のある階層的大都市圏構造の構築
- ・リニア中間駅を核とした地域づくり
- ・東海道新幹線・新東名高速沿線地域へのリニア効果波及

リニア効果の中部・北陸圏への広域的な波及

- ・名古屋駅のスーパーターミナル化
- ・広域波及のためのネットワーク強化

国際大交流時代を拓く観光・交流

- ・国内外との観光・交流の促進
- ・国際交流拠点としての魅力創造・発信、MICE、コンベンション機能拡充強化

【方針3】

地域の個性と対流による地方創生

【具体的方策】

コンパクト+ネットワーク

- ・「小さな拠点」の形成・活用による持続可能な地域づくり
- ・地域特性に即した「コンパクト+ネットワーク」による対流の促進

広域的な連携により創り出す都市圏・地方圏の形成

- ・連携中枢都市圏や定住自立圏構想による新たな広域連携
- ・地域の個性や特性を活かした広域連携による地域づくり

地域産業の活性化による地域活力の維持・発展

- ・地域を支える農林水産業の強化
- ・地域住民の生活を支える地域消費型産業の振興

地域の個性を活かした交流連携の創出

- ・地域資源を最大限活用する観光振興・観光業の活性化
- ・歴史・文化の魅力を活かしたまちづくり
- ・伝統工芸の振興

快適で安全・安心な生活環境の構築

- ・住民や利用者のニーズにマッチした次世代交通システムの構築
- ・住民生活の安全・安心の確保

【方針4】

安全・安心で環境と共生した中部圏形成

【具体的方策】

災害に対して粘り強くしなやかな国土の構築

- ・南海トラフ地震に備えた強靱な国土の構築
- ・頻発・激甚化する自然災害への対応
- ・都市の防災・災害対策の推進
- ・ものづくり産業の防災力強化
- ・広域的な連携による支援体制の強化
- ・ネットワークの多重性・代替性確保、並びに首都圏のバックアップ体制の強化
- ・地域防災力の向上

環境と共生した持続可能な地域づくり

- ・自然環境の保全・再生、環境と調和した美しい景観・国土づくり
- ・持続可能な都市・地域づくり

国土の適切な保全

- ・健全な水循環、総合的な土砂管理による循環型国土の構築
- ・物質循環の安定確保による地域循環圏の形成

- ・森林や農地の整備・保全

インフラの維持・整備・活用

- ・インフラの戦略的なメンテナンスの推進

- ・インフラの戦略的な活用（賢く使う）
- ・民間活力の活用
- ・地域の守り手としての建設業の強化、担い手の育成・確保

図9 太平洋・日本海2面活用型国土構築



【方針5】

人材育成と共助社会の形成

【具体的方策】

中部圏を支える人材の育成と確保

- ・高度人材、グローバルに活躍する人材
- ・地域社会の連携による人材の育成・確保

全ての人々が参画する社会の形成

- ・女性活躍社会 ～多様なライフスタイルの実現・人材育成～
- ・高齢者参画社会 ～健康長寿を伸ばし生き生きと活躍できる社会～
- ・障害者共生社会 ～誰もが社会参画し能力を最大限発揮し得る社会～
- ・多文化共生社会 ～多国籍外国人が安心して働き、暮らせる社会～

多様な主体による共助社会づくり

- ・日常生活支援サービス産業の育成、ソーシャルビジネスの起業、課題解決型NPOの育成
- ・多様な主体、活動の継続性、人材育成、資金調達・資金循環

誰もが愛着と憧れを持ち、働き住み続けた

くなる地域づくり

- ・地域産業活性化(雇用)、空き家対策、UIJターン取り込み、郷土愛の醸成
- ・医療・介護・育児施設充実、若者や子育て世帯向け住宅供給、コミュニティ再生
- 医療・介護、福祉における安心な暮らしの確保
- ・医療・介護サービス充実、地域包括ケアシステム、住宅・福祉政策連携、予防医療、高齢者見守り
- ・日本版 CCRC (Continuing Care Retirement Community)

2-4. 新たな中部圏実現に向けた具体的取組、中部・北陸広域連携など（略）

2-5. 計画の効果的推進に向けて - 選択と集中による重点化、効率化を図った施策の展開（略）

- ・中部・北陸圏強靱化プロジェクトなど

3. 道州制モデルとしての中部州もしくは中部・北陸州へ、州都「岐阜・愛知地域案」

日本列島における広域地方生活圏として、中部圏は関西圏、関東圏と並ぶ、ひとかたまりの主要な広域地方に違いなく、もし日本列島に道州制が採用されるならば中部州は堂々たる「州」として大きな存在感を内外に示すことでしょう。

同時に、中部圏は環太平洋連携に合わせて、歴史的に環日本海連携を指向しております。例えば、平成7、8年頃、「日本中央横断軸構想—日本の中央において国土を横断することにより、国土の均衡ある発展に寄与するとともに、環日本海交流圏と太平洋交流圏を結び

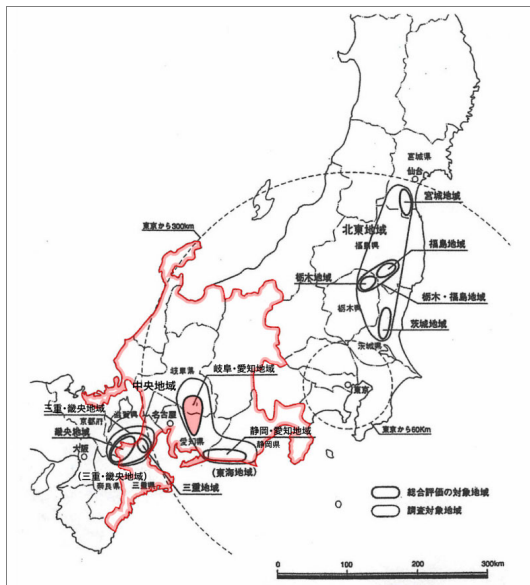
つけ、新たな国際圏を形成する」が、愛知県、岐阜県、富山県、石川県のプロジェクトとして掲げられ、現在、当時の構想がほぼ実現しております。

現在、南北朝鮮の融和の動き、北東アジアの動きに合わせて、21世紀、環日本海生活圏は歴史の前面に出てくるに違いありません。

中部圏と北陸圏（富山、石川、福井県）と一体になり、中部・北陸州といったことになれば、21世紀の日本のかたちとしてダイナミックな動きを予感させます。その時、副州都は北陸圏に置くとして、州都は「岐阜・愛知地域」はどうであろうか。

かつて国会等移転審議会による遷都候補地選定（平成 11）において、「北東地域」と並んで「岐阜・愛知地域」が有力候補に選定されております。この州都には新設が予想される防災庁（省）も引き受けてはどうか。東京と「岐阜・愛知」州都とはリニア中央新幹線で1時間の距離です。

図 10 遷都候補地
（北陸・中部州都案に重ねて）



※国会移転等審議会による遷都候補地選定（平成 11年）に戸沼が加筆

平成最後のこの3月、4月、中部地方の町や都市を地図片手に地域を巡りながら、当面する内外の大きな変化に備える大胆な国づくりの必要を改めて感じたことでした。

図 11 リニア中央新幹線のルートと駅候補地
（三重県と奈良県は未定）



出典 <https://infall24.com/linear>

【参考文献】

- 『新たな中部圏広域地方計画』中部圏広域地方計画協議会、国土交通省大臣決定、2016. 3. 29
- 『データで見る 2019「県勢」』第 28 版、公益法人 矢野恒太郎記念会 編集・発行、2018. 12. 1
- 『大百科事典—静岡・愛知・三重・岐阜・長野の各県の項目』平凡社、1984
- 『今がわかる時代がわかる日本の地図』成美堂出版、2012・2019 年版
- 『日本史総合図録』山川出版 1991 年版
- 『日本史年表・地図』吉川弘文館 2016 年版

【掲載の図に関する注】

- 図 3～6、8、9 の出典
『新たな中部圏広域地方計画』中部圏広域地方計画協議会、国土交通省大臣決定、2016. 3. 29
- 図 7 の出典
『新たな中部圏広域地方計画』中部圏広域地方計画協議会、国土交通省大臣決定、2016. 3. 29 に加筆

(2019.04.20)